

Japan Venture Awards 2020 内において

ベンチャー支援事業の推進に対する功労感謝状を3名の方に贈呈！

独立行政法人中小企業基盤整備機構（略称：中小機構、理事長：豊永厚志、所在地：東京都港区）は、2月25日、起業家表彰「Japan Venture Awards（略称：JVA）2020」の表彰式（虎ノ門ヒルズフォーラム5階）において、これまで中小機構のベンチャー支援事業の推進に貢献していただいた3名の方に功労感謝状の贈呈を行いました。

功労感謝状贈呈者と贈呈理由は以下の通りです。

■早稲田大学名誉教授 松田修一氏

永年我が国におけるベンチャー企業の育成の重要性に対する国民理解を深めることに努められ、その卓越した学識経験を通じて多大なる貢献をされたことに感謝の意を表して、功労感謝状を贈呈しました。

■一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会名誉会長 仮屋蘭聡一氏

我が国ベンチャーキャピタルの振興を通じて優れたベンチャー企業の創出に努められ、その豊富な知見と幅広いネットワークを通じて多大なる貢献をされたことに感謝の意を表して、功労感謝状を贈呈しました。

■Sansan 株式会社代表取締役社長/CEO 寺田親弘氏

イノベーションを実現する企業の創出に向けた多大な努力を尽くされ、次代のモデルとなる事業を提示することにより多大なる貢献をされたことに感謝の意を表して、功労感謝状を贈呈しました。

功労感謝状贈呈者の詳細は別紙をご覧ください。

<独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）>

中小機構は、日本の中小企業政策の総合的かつ中核的な実施機関として、全国の中小企業・小規模事業者への支援をトータルで行う経済産業省所管の独立行政法人です。生産性向上や事業承継など様々な課題を抱える中小企業に対して、創業、販路開拓、海外展開、人材育成、事業引継ぎ、その他経営面での助言、情報提供及び震災復興支援や共済制度、ファンドを通じた資金提供など多様な支援を実施しています。

<本件に関するお問い合わせ先>

独立行政法人 中小企業基盤整備機構
ファンド事業部 ファンド事業企画課（担当者：坂本、辻）
住所：東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
電話：03-5470-1672（ダイヤルイン）

20年目を迎えるJapan Venture Awards表彰において、これまでの中小機構のベンチャー支援事業の推進に貢献して頂いた方々に感謝の意を表して、功労感謝状の贈呈を行いました。

松田 修一氏 Shuichi Matsuda

早稲田大学 名誉教授

【PROFILE】1966年公認会計士試験2次試験合格、1973年監査法人サンワ事務所（現在 監査法人トーマツ）入社、社員（パートナー）として中堅・ベンチャー企業のコンサルティングに従事。商学博士（早稲田大学）取得後、1986年早稲田大学助教授、1991年教授に就任。2012年早期退職、名誉教授。現在、ウエルインベストメント株式会社取締役会長、日本ニュービジネス協議会連合会副会長。元日本ベンチャー学会会長。現同学会顧問。経済産業省・財務省・文部科学省・総務省などの審議会・委員会などを歴任。

（功績の内容）

永年我が国におけるベンチャー企業の育成の重要性に対する国民理解を深めることに努められ、その卓越した学識経験を通じて多大なる貢献をされた

仮屋 蘭 聡一氏 Soichi Kariyazono

一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 名誉会長

【PROFILE】慶應義塾大学法学部卒、米国ピッツバーグ大学MBA修了。株式会社三和総合研究所での経営戦略コンサルティングを経て、1996年、株式会社グロービスのベンチャーキャピタル事業設立に参画。1号ファンド、ファンドマネジャーを経て、1999年エイパックス・グロービス・パートナーズ設立よりパートナー就任。2006年マネジング・パートナー（現代表パートナー）就任、現在に至る。2015年7月より一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会会長、2019年7月より同協会名誉会長を務める。

（功績の内容）

我が国ベンチャーキャピタルの振興を通じて優れたベンチャー企業の創出に努められ、その豊富な知見と幅広いネットワークを通じて多大なる貢献をされた

寺田 親弘氏 Chikahiro Terada

Sansan株式会社 代表取締役社長/CEO

【PROFILE】慶應義塾大学環境情報学部を卒業後、三井物産株式会社へ入社。情報産業部門に配属された後、米国・シリコンバレーでベンチャー企業の日本向けビジネス展開支援に従事する。帰国後は、社内ベンチャーとしてデータベースソフトウェアの輸入販売を行う部門を立ち上げる。その後、関連会社に出向し、経営企画・管理業務を担当。2007年、Sansan株式会社を創業する。

（功績の内容）

イノベーションを実現する企業の創出に向けた多大な努力を尽くされ、次代のモデルとなる事業を提示することにより多大なる貢献をされた